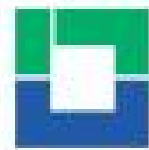


専門職GPシンポジウム



教育の専門職養成のための コアカリキュラム

地域との連携を通して
院生の授業力向上をはかる大学院改革



国立大学法人

鳴門教育大学

1 取組の背景

【課題1】

教職大学院が開設されるなか、既設大学院の機能をいかに活性化するか？

なぜなら本学「**学校教育研究科**」の主たる構成員は依然として既設大学院の院生だから

- 既設(人間教育,特別支援教育,教科・領域教育)...250名
- 新設(高度学校教育実践専攻)...50名



既設大学院における「教育の専門職」養成の位置づけ, 目的とは？



【課題2】

学問・芸術の専門的知見と教育現場の課題 を架橋する教育をいかにして実現するか？

- 現行「教育実践研究」のテーマ乱立化の傾向
院生の学び・経験の質にも差が目立ってきた
- これら実践的科目と専門科目の連携が弱い



カリキュラムの構造はどのようにあるべきか？
いかに改善するとよいか？



【課題3】

院生のキャリア・問題関心・能力の多様化に いかに対応するか？

- 教員免許を持たない教員養成プログラム院生
- 教員免許を持つ学卒院生（実習経験のみ）
- 教員経験豊かな現職員生，の混成が一層進む



**授業として，高度な実践力と基礎的な実践力
をいかに一体的に育成するか？**

専門職GPの取組

【課題1：目的】

既設大学院における「教育の専門職」養成の目的とは？

【ソリューション1】

？

【課題2：内容】

カリキュラムの構造は、どのようにあるべきか？

【ソリューション2】

？

【課題3：方法】

高度な実践力と基礎的な実践力をいかにして養うか？

【ソリューション3】

？

2 取組の内容

【ソリューション1】

「教育の専門職」養成における2つのアプローチ

教育の専門職

学校教育が直面する広範な課題に適切に対応し解決できる、スペシャルな能力に裏打ちされた**ジェネラリスト**

教職大学院

専門的知見を活かして授業や指導・相談ができる、教育に関するジェネラルな問題意識に支えられた**スペシャリスト**

既設大学院

教育の専門職

既設大学院

【ソリューション2】

教育に関して共通に学ぶ「コアカリキュラム」設置

コアカリキュラムの2領域

広領域コア科目(4単位)

今日の教育課題を総合的・横断的に捉え、
大学を拠点に課題研究に取り組む

教育実践フィールド研究(4単位)

今日の教育課題を教科・領域の視点から捉え直し、
教育現場と大学との往還で課題研究に取り組む

スペシャルな知識・技能

専門科目

課題研究

(修士論文)

ジェネラルな問題意識

必修のコアカリキュラム

教育実践フィールド研究

教育課題を教科・領域の視点から捉え直し、構造化して追求

教育課題

テーマA

テーマB

テーマC

テーマD

国語科なりのテーマ追求

(国語科コース所属の院生)

数学科なりのテーマ追求

(数学科コース所属の院生)

音楽科なりのテーマ追求

(音楽科コース所属の院生)

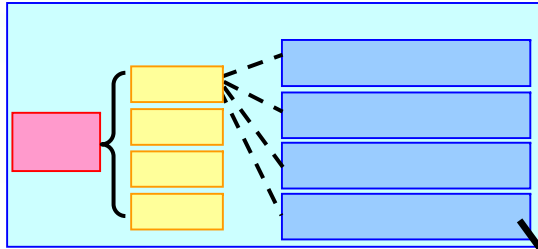
道徳・総合なりのテーマ追求

(人間教育専攻の院生)

教育課題の捉え方, テーマの解決策の多様性の理解
各教科・領域に固有な目的や特性の理解

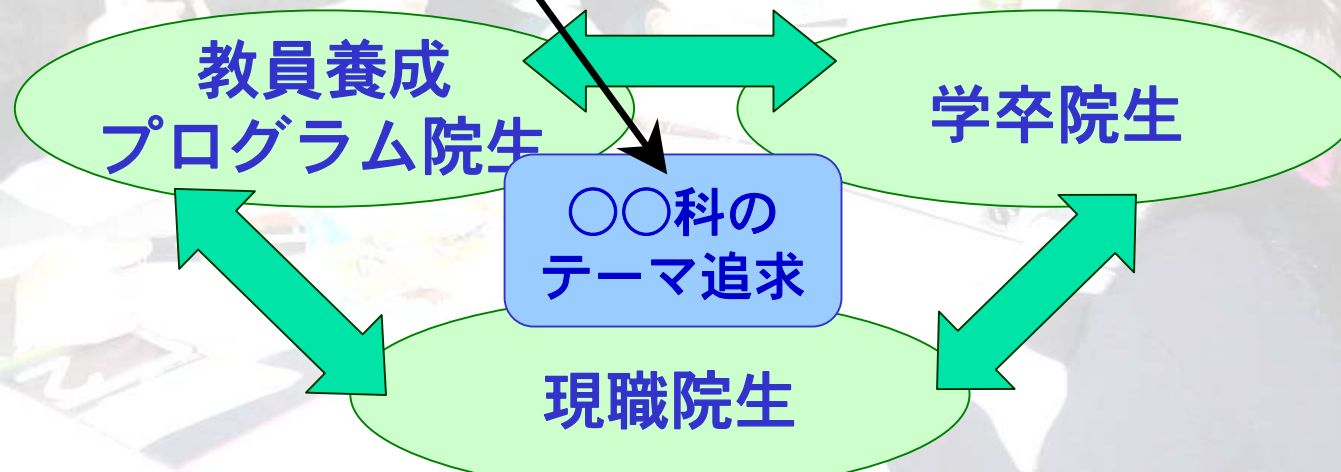
「教育実践フィールド研究」における教育課題の構造化のイメージ

教育課題	課題に基づくテーマ	院生チーム	テーマに対するアプローチ例	教科・領域
領域1: 子どもの心と成長	他者を思いやる心を育てる	人間形成	優しさとは何か	道徳
		国語	古典に描かれた人の生き方	教科(国語)
		社会	社会福祉の思想と現実	教科(地歴)
		技術・工業・情報	情報の受け取りと発信のためのリタラシー	教科(技術)
	子どもの社会化を支援する	臨床心理士養成	大人になるとは	道徳
		幼年発達支援	自分にできること, できないこと	教科(生活)
		現代教育課題総合	ルールって何だろう	総合
		家庭	家族の支え, 家族の形	教科(家庭)



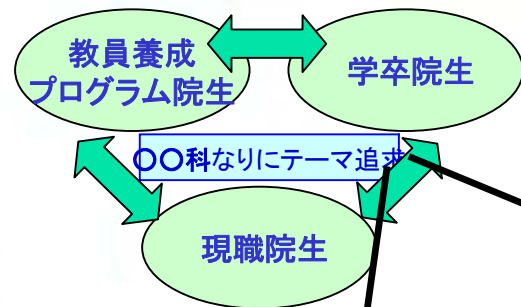
【ソリューション3】

「教育実践フィールド研究」を、院生と院生、大学院と現場の対話の場として位置づける



キャリアを異にする院生5~7人程度でチームをつくる

- 若手院生には**原理的批判**と**行動力**を期待する
- 現職院生には**経験的提言**と**指導性**を期待する



現場と大学との往還を通して、1つのテーマをじっくり追求する
 ウェブポートフォリオも活用し、継続的な提案・討論・内省を促す

協力校での学習

知の交流と蓄積

大学院での学習

M 1 : 10月~11月
 2. 教育課題に関する現状理解

M 1 : 2月
 4. 子ども・教師の視点を踏まえた課題解決の研究

M 2 : 6月
 6. 授業実践, 成果の省察・評価

M 2 : 10月 7. 学習成果の報告(教育実践フィールド研究フォーラム)

M 1 : 4月~7月
 1. 学校教育の課題と論点・争点

M 1 : 12月~1月
 3. 教科・領域の特性(目標・内容)を踏まえた課題解決の研究

M 2 : 4月~5月
 5. 課題解決に繋がる授業開発

直接の検討会



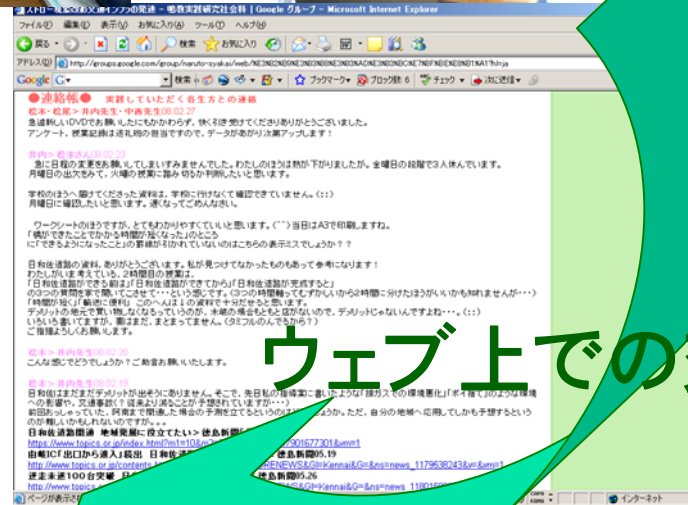
大学院での授業



協力校での授業



ウェブ上での交流



専門職GPの取組

【課題1:目的】

既設大学院における「教育の専門職」養成の目的とは？

【ソリューション1】

教育に関するジェネラルな問題意識をたずさえたスペシャリストの養成

【課題2:内容】

カリキュラムの構造は、どのようなにあるべきか？

【ソリューション2】

「教育実践フィールド研究」を通じて、教育課題に専門的・構造的にアプローチ

【課題3:方法】

高度な実践力と基礎的な実践力をいかにして養うか？

【ソリューション3】

多様な経験と関心をもった大学院生のチームと協力校教員の共同研究

3 試行プログラム

来年度から「教育実践フィールド研究」を本格稼働させるため、現行の「教育実践研究」から4チームを選んで、試行的な取組を行った

- A チーム(梅津): **教科目標・授業構成**の研究
「主体的に社会認識を形成する社会科学習の展開と構想」
- B チーム(草原): **内容構成・教材開発**の研究
「社会認識形成を支援する映像メディア教材の開発と試行」
- C チーム(山森): **内容構成・評価計画**の研究
「目標・指導・評価の一体化をはかった英語授業」
- D チーム(長島): **学習指導・教材解釈**の研究
「音楽によるコミュニケーションの成立をめざした音楽授業の工夫」



赤:「教育の専門職」の条件

黒:「教育実践フィールド研究」の目標&指導法

青:重点的に取り組むチーム

① 教員の協働力:

多様なキャリアの院生がチームをつくって、教育課題の研究に取り組むことができる→**A梅津・C山森チーム**

② 課題の分析力:

同一の教育課題を複数の視点・論点から分析して、多様な解決策を追求できる→**A梅津チーム**

③ 授業の開発力:

先端の学問/芸術と教育実践を架橋して、教育課題に応える授業や教材を開発できる→**B草原・D長島チーム**

④ 実践の省察力:

大学と現場が連携して授業を実践し、実践上の成果・課題を省察できる→**B草原・C山森・D長島チーム**